

平成 29 年度 第 1 回賛助会員事業推進連絡会 議事メモ

日時：平成 29 年 6 月 23 日（金） 14 時 00 分～15 時 30 分

会場：ワークピア横浜 3F かもめ・やまゆり

～第 1 部～

1 開会の挨拶

出席のお礼。観光 MICE の都市間競争に勝つために、資源をどう活かしていけるか皆様と取り組んでいく。

2 当財団の事業報告（国内誘客、海外誘客、MICE 振興、来訪者支援、広報）

（1）海外誘客

- ・インバウンドは堅調に推移している。
- ・11 月にハラルエキスポジャパンに初出展予定する。出展希望者あればお知らせください。
- ・横浜市はムスリムの冊子を昨年作成した。
- ・国交省は訪日クルーズ 500 万人を掲げている。和のメニューを開発し、横浜滞在を促したい。
- ・11 月に横浜見学会を予定している。

（2）MICE 振興

- ・国際会議誘致セールス状況報告。IMEX で 17 件の商談を行った。
- ・今年の ICCA 総会プラハで 11 月に開催される。2020 横浜大会の最終プレゼンの場となる。
- ・「国際耳鼻咽喉科学会会議」5 都市競合で横浜誘致を目指している。（5000 名規模。2021 年開催）
- ・今年開催の大型国際会議の紹介。
- ・市内大学とのネットワークの強化を行っている。大学をサポートし、会議開催件数の拡大を図りたい。

（3）国内誘客

- ・観光資源開発・・・一部 7 月からスタートし、需要期も含めた集客を図る。対象はアクティブシニア中心。新たな魅力づくりに取り組む。
- ・教育旅行・・・全国を見据えてセールス活動を行っている。キャリア教育プログラムのメニュー作りに注力。商店街での販売体験などが修学旅行の誘致につながっている。

（4）来訪者支援

- ・受け入れの様々な事業、セミナーの開催を行う。(株)イーオンと連携し、おもてなし英語セミナー行う。
- ・事業者連携企画事業が 3 年目となる。今年度は 360 度カメラを使った事業に支援を行う。クルーズ関連の事業では、商店街循環バス、500 円タクシーに対する支援。

（5）広報プロモーション

- ・トリップアドバイザーで横浜の特集ページを掲載。継続的なメンテナンスやクチコミのフォローをお願いしたい。今年度は 11 地域の特集ページで展開していく。
- ・横浜ハイカラワーキングを立ち上げた。
- ・SNS の多言語に取り組んで行く。オール横浜で海外に向けて発信力を高めていきたい。

3 スポーツイベント（2019年）に関するセミナーについては賛助会員専用ページをご覧ください

URL : <http://www.welcome.city.yokohama.jp/ja/ycvb/memberinfo/>

4 ワーキング活動報告

- ・今年度第1回目のワーキングについて報告
 - 「観光資源開発ワーキング（国際誘客課）」
 - 「インバウンドワーキング（海外誘客課）」
 - 「MICE ワーキング（MICE 振興課）」
 - 「受入環境整備ワーキング（来訪者支援課）」
 - 「広報ワーキング（広報プロモーション課）」
 - ・「横濱ハイカラ」のWEB プロモーションのコンテンツを募集している。
 - ・各ワーキングの議事メモはWEBに順次アップする。
 - ・多くの方にワーキングにご参加いただきたい。

～第2部～（14時45分～15時30分）

セミナー「横濱のインバウンド誘致強化に向けて～北海道の事例から学ぶ～」

(株)JTB コーポレートセールス 法人営業横浜支店
観光戦略推進部長 萩野 隆二氏

- ・講師自己紹介

(1) 北海道の近年の動向

- ・北海道新幹線開業一年／千歳空港の利用者は伸びている。（特に国際線）／ニセコの活況続く（外国人宿泊者延べ数46万人。ニセコ地価上昇率全国1位。オーストラリア人→アジア人ヘシフト）／外資系ホテルの建設ラッシュ。）
- ・北海道はロンリープラネットの「2016年アジアで訪れるべき地域」の1位
- ・北海道観光データ 平成27年の観光入込客数は5,447万人。延宿泊者数は東京都に次いで2位。インバウンドが大幅に増えている。
- ・全国との比較 外国人延宿泊者数692万人（対前比+22%） 神奈川227万人
- ・北海道観光の強み ①アジア随一のウインターリゾート②自然・食文化の「北海道ブランド」③観光地としての多様性
- ・北海道観光の推進組織・機能 官民連携の「北海道観光振興機構」が力を持っている。
- ・市町村の取組み
登別市 1996年インバウンドに本格的に取り組みはじめた。
アジアの自治体研修生の受け入れしている、→ネットワーク作っている
- ・北海道の観光動向
2020年訪日外国人来道者数 300万人から500万人に上方修正した
北海道7空港の一括民営化 札幌一極集中を分散させる目的

(2) 北海道の観光の課題

- ・道央一点集中
- ・インバウンドはアジア一辺倒で欧米が少ない
- ・受入れ環境整備（空港での足止め、JR北海道維持困難）

(3) 北海道の観光課題の解決に向けて～官民連携による観光振興の事例～

- ・札幌市の事例

イメージのマンネリ化→札幌市、JTB 北海道で観光振興に関する意見交換会の開催

- ・大倉山観光開発事業

大倉山ジャンプ競技場を新たな観光資源に。カウントダウンイベントの開催。

→インバウンド観光客を多数集客。

- ・札幌の夜間観光力の強化

エンターテインメントイベント事業（訪日向けのショー）、地元商店街との連携

(4) 横浜のインバウンド強化に向けて

- ・横浜のインバウンドの現況・・・他都市と比較してインバウンドの割合が低い。

経済波及効果を高めるには観光消費額の大きい外国人を誘致する必要がある。

グローバル市場における「横浜」は導入期か成長期。（今後成長の余地が大きい）

- ・「観光地間競争」において、横浜は「チャレンジャー」

「リーダー」である東京との差別化が必要

- ・ベンチマークはシドニー。シドニーは時代に沿った貪欲な展開をしている。

- ・各観光セグメントに対してどのようなマーケティングを行うかが重要。

- ・JTB は英国で「スポーツ×観光」を展開している。

- ・横浜ならではの世界観を作り上げて行けるとよい。

- ・魅力的な街づくりには「官民連携」「異業種連携」が大切である。

以上